

一人一人が性の多様性を認め合い、ありのままの自分で暮らしていける社会をめざして ～現在の中学校の様子から～

「LGBTQ」や「性的指向と性自認」といった言葉をニュースやドラマで聞く機会が増えてきました。性は「からだの性」「こころの性」「好きになる性」「表現する性」などの要素が組み合わさった多様なものです。「10人いれば10通りの性がある」ともいわれます。

かつては社会のあらゆる場面で「男性」「女性」の二つに分けることが前提となっていました。学校でも男女別の名簿が使われ、中学校では男子は技術科、女子は家庭科に分かれていました。しかし今は男女混合名簿になり、男子も女子も技術科・家庭科の履修が当たり前になっています。

そして現在、「男女を分けずに」から「多様な性

を認め合う」ことをめざした社会へと変わりつつあります。学校生活においても、「男子制服・女子制服」から性別を問わない



「スラックスセット・スカートセット」などに変更し、自分が好きな制服を自分で選べるようにした学校が増えてきています。学校を含めた社会のあらゆる場面で性の多様性が認められていく、その積み重ねによって社会全体の当たり前が変わり、一人一人がありのままの自分で暮らしていける社会をつくっていくことができるのではないのでしょうか。



【中学生の声】



私は中学校に入学する前、制服のスカートをはくのが本当にイヤでした。でも、スラックスも選べるようになったと聞いて、とても嬉しかったです。採寸のとき、お店の人が「似合ってるよ」「ステキやわ」と言ってくれたのも嬉しかったです。中学校生活が始まり、制服のことでからかわれたりすることもなく、自分の好きな制服を着て、毎日楽しく過ごせています。